

2020年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年11月12日

上場会社名 株式会社デ・ウエスタン・セラピテクス研究所 上場取引所 東
 コード番号 4576 URL https://www.dwti.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 日高 有一
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役総務管理部長 (氏名) 川上 哲也 (TEL)052-218-8785
 四半期報告書提出予定日 2020年11月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年12月期第3四半期の連結業績（2020年1月1日～2020年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年12月期第3四半期	240	△46.8	△147	—	△164	—	△150	—
2019年12月期第3四半期	451	119.4	107	—	99	—	119	—

(注) 包括利益 2020年12月期第3四半期 △165百万円 (—%) 2019年12月期第3四半期 98百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年12月期第3四半期	△5.70	—
2019年12月期第3四半期	4.57	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年12月期第3四半期	2,754	2,289	83.0
2019年12月期	1,981	1,408	70.3

(参考) 自己資本 2020年12月期第3四半期 2,286百万円 2019年12月期 1,393百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2020年12月期	—	0.00	—	—	—
2020年12月期 (予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年12月期の連結業績予想（2020年1月1日～2020年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	310	△46.6	△390	—	△410	—	△340	—	△12.94

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年12月期3Q	29,251,100株	2019年12月期	26,275,200株
② 期末自己株式数	2020年12月期3Q	100株	2019年12月期	—株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年12月期3Q	26,473,827株	2019年12月期3Q	26,275,200株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間において、当社グループは新薬の継続的な創出とパイプラインの拡充を目指し、研究開発活動を推進いたしました。

自社創製品については、「グラナテック®点眼液0.4%（一般名：リパスジル塩酸塩水和物、適応症：緑内障・高眼圧症、ライセンスアウト先：興和株式会社（以下、「興和」））（以下、「グラナテック」）」の国内販売状況は順調に推移しております。同剤の海外については、シンガポール、マレーシア及びタイにおいても承認取得し、興和では引き続き更なる海外展開を検討しております。また、配合点眼剤（リパスジル塩酸塩水和物とブリモニジン酒石酸塩）の国内第Ⅲ相臨床試験が開始されております（開発コード：K-232）。なお、緑内障治療剤「H-1337」については、引き続きライセンスアウト活動を継続しつつ自社開発を進める方針です。

導入品については、「DW-1002」の欧州等で上市済みの製品（製品名：ILM-Blue®、MembraneBlue-Dual®、適応症：内境界膜剥離、ライセンスアウト先：Dutch Ophthalmic Research Center International B.V.（以下、「DORC」））及び同剤の米国製品（製品名：TissueBlue™、適応症：内境界膜剥離）の販売状況は順調に推移しております。また、開発パイプラインの拡充策の一つとして、株式会社メドレックス（以下、「メドレックス」）と神経疼痛治療薬「DW-5LBT（メドレックスの開発コード：MRX-5LBT）」の共同開発契約を締結し開発を進め、8月に米国へ承認申請いたしました。

なお、10月には、当社の連結子会社である日本革新創薬株式会社（以下、「JIT」）が、国立大学法人東京農工大学及び有限会社ペプチドサポートから独占の実施権の許諾を受けた未熟児網膜症等診断薬に関する特許について、中華人民共和国、香港特別行政エリア、台湾地域における独占の実施権を、Splendor Health International Limitedに再許諾するライセンス契約を締結し、契約一時金を受領いたしました。

研究開発プロジェクトについては、シグナル伝達阻害剤開発プロジェクトにおいて、眼科関連疾患を中心に新薬候補化合物の探索のための研究開発活動を行い、また、他社との共同研究を推進いたしました。2018年からGlaukos Corporation（以下、「Glaukos」）との間で、緑内障領域を対象に新規眼内投与製品の創出を目的とした共同研究を行っておりますが、共同研究の進捗が順調に進んでいることから、Glaukosの求めに応じて、新たに角膜障害と網膜疾患を対象として追加した共同研究契約並びにライセンス契約を9月に締結いたしました。この対象疾患の拡大に応じて、Glaukosから受け入れている研究費は増額されています。

以上の結果、売上高については、各上市品のロイヤリティ収入等により、合計240百万円（前年同期比46.8%減、前期は、ライセンスアウト達成による契約一時金並びに開発の進捗に伴うマイルストーン収入が発生していたことによる）を計上し、売上原価に11百万円（前年同期比29.2%減）を計上いたしました。

販売費及び一般管理費については、376百万円（前年同期比14.7%増）となりました。その内訳は、研究開発費が184百万円（前年同期比1.7%増）、その他販売費及び一般管理費が人件費及び新株予約権の権利行使により資本金等の額が増加したことに伴う事業税（外形標準課税）の増加等により、192百万円（前年同期比30.8%増）となりました。

これらにより、営業損失は147百万円（前年同期営業利益107百万円）となりました。また、営業外費用に支払手数料6百万円及び新株発行費5百万円を計上したこと等の結果、経常損失は164百万円（前年同期経常利益99百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は150百万円（前年同期親会社株主に帰属する四半期純利益119百万円）となりました。

なお、当第3四半期連結累計期間における新薬候補化合物開発状況は以下の通りです。

(イ) 自社創製品

開発コード等	対象疾患	開発段階	地域	ライセンスアウト先 ／開発コード
リパスジル 塩酸塩水和物	グラナテック 緑内障・高眼圧症	上市	日本	興和／K-115
		承認	アジア4ヶ 国（注1）	
		申請	ベトナム	
K-321	角膜内皮障害 （フックス角膜内皮変性症）	第Ⅱ相臨床試験	米国	興和／K-321

開発コード等	対象疾患	開発段階	地域	ライセンスアウト先 ／開発コード	
リパシジル塩 酸塩水和物/ ブリモニジン 酒石酸塩	K-232	緑内障・高眼圧症	第Ⅲ相臨床試験	日本	興和／K-232
H-1337	緑内障・高眼圧症	第Ⅰ相/前期第Ⅱ 相臨床試験	米国		自社開発
K-134（注2）	—	—	日本		興和／K-134

（注1）韓国、シンガポール、マレーシア、タイ

（注2）ライセンスアウト先の興和により、閉塞性動脈硬化症以外の適応症への応用を検討されているため、対象疾患と開発段階は記載しておりません。

（ロ）導入品

開発コード等	対象疾患	開発段階	地域	ライセンスアウト先/ 開発コード	起源
DW-1002	内境界膜剥離	上市	欧州	DORC	国立大学法人 九州大学
		上市	米国		
		申請	カナダ		
	内境界膜染色	第Ⅲ相臨床試験	日本	わかもと製薬 ／WP-1108	
白内障手術	第Ⅲ相臨床試験	日本			
DW-5LBT	帯状疱疹後の神 経疼痛	申請	米国	メドレックスと共同開 発／MRX-5LBT	メドレックス
DW-1001	眼科用治療剤 （非開示）	非臨床試験	日本	ロート製薬	英国企業
未熟児網膜症治療薬 （注3）	未熟児網膜症	臨床試験準備中	日本	JIT開発	国立大学法人 東京農工大学

（注3）JITは、未熟児網膜症等診断薬に関する特許について、10月に中華人民共和国、香港特別行政エリア、台湾地域における独占的実施権を、Splendor Health International Limitedに再許諾するライセンス契約を締結いたしました。

（ハ）研究開発プロジェクト

開発コード等	対象とする疾患等	開発段階	共同研究先
シグナル伝達阻害剤開発プロジェクト	眼科関連疾患、神経、循環器、呼吸器系 疾患	基礎研究	国立大学法人三重 大学等
新規デバイス創出プロジェクト	緑内障、角膜障害、網膜疾患	基礎研究	Glaukos

（2）財政状態に関する説明

総資産は、前連結会計年度末から772百万円増加し、2,754百万円となりました。流動資産は、前連結会計年度末から801百万円増加し、2,517百万円となりました。主な要因は、第10回新株予約権の権利行使等により、現金及び預金が761百万円増加したこと等によるものです。固定資産は、前連結会計年度末から29百万円減少し、236百万円となりました。主な要因は、契約関連無形資産が30百万円減少したこと等によるものです。

負債は、前連結会計年度末から108百万円減少し、465百万円となりました。流動負債は、前連結会計年度末から19百万円減少し、170百万円となりました。主な要因は、未払法人税等が10百万円増加した一方で、流動負債のその他が27百万円減少したこと等によるものです。固定負債は、前連結会計年度末から89百万円減少し、294百万円となりました。主な要因は、長期借入金金が90百万円減少したこと等によるものです。

純資産は、前連結会計年度末から880百万円増加し、2,289百万円となりました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上により利益剰余金が150百万円減少した一方で、第10回新株予約権の権利行使等により、資本金及び資本剰余金がそれぞれ522百万円増加したこと等によるものです。

この結果、自己資本比率は83.0%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年12月期の通期連結業績予想につきましては、2020年4月16日に公表いたしました業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,540,784	2,302,031
売掛金	103,523	122,788
仕掛品	804	95
貯蔵品	58,564	58,366
その他	12,105	34,432
流動資産合計	1,715,782	2,517,713
固定資産		
有形固定資産	3,128	5,602
無形固定資産		
契約関連無形資産	246,857	216,000
その他	3,054	2,786
無形固定資産合計	249,911	218,786
投資その他の資産	12,527	11,995
固定資産合計	265,567	236,384
資産合計	1,981,349	2,754,098
負債の部		
流動負債		
1年内返済予定の長期借入金	120,000	120,000
未払金	25,788	23,528
未払法人税等	2,892	13,659
その他	40,585	12,846
流動負債合計	189,265	170,034
固定負債		
長期借入金	360,000	270,000
その他	24,000	24,995
固定負債合計	384,000	294,995
負債合計	573,265	465,029
純資産の部		
株主資本		
資本金	34,762	556,856
資本剰余金	2,133,478	2,655,571
利益剰余金	△775,176	△926,118
株主資本合計	1,393,065	2,286,310
新株予約権	—	2,758
非支配株主持分	15,018	—
純資産合計	1,408,083	2,289,068
負債純資産合計	1,981,349	2,754,098

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)
売上高	451,815	240,547
売上原価	16,044	11,363
売上総利益	435,770	229,184
販売費及び一般管理費		
研究開発費	181,260	184,386
その他	147,177	192,493
販売費及び一般管理費合計	328,437	376,880
営業利益又は営業損失(△)	107,333	△147,696
営業外収益		
受取利息	152	120
補助金収入	367	2,367
その他	50	116
営業外収益合計	569	2,603
営業外費用		
支払利息	4,513	3,579
為替差損	3,766	4,069
支払手数料	—	6,084
新株発行費	—	5,535
その他	0	402
営業外費用合計	8,280	19,671
経常利益又は経常損失(△)	99,622	△164,764
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	99,622	△164,764
法人税、住民税及び事業税	1,196	1,196
法人税等合計	1,196	1,196
四半期純利益又は四半期純損失(△)	98,426	△165,960
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△21,522	△15,018
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	119,949	△150,942

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	98,426	△165,960
四半期包括利益	98,426	△165,960
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	119,949	△150,942
非支配株主に係る四半期包括利益	△21,522	△15,018

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)
減価償却費	33,028千円	32,755千円

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期連結累計期間において、SMBC日興証券株式会社が保有する行使価額修正条項付第10回新株予約権の一部について権利行使がありました。当該新株予約権の権利行使の概要は以下のとおりであります。

①発行した株式の種類及び数 普通株式 2,939,000株

②発行価額の総額 1,026,985千円

この結果、新株予約権の振替額3,585千円を含め、資本金が515,285千円、資本準備金が515,285千円増加いたしました。

(セグメント情報)

前第3四半期連結累計期間(自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)

当社は、創薬事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当第3四半期連結累計期間(自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)

当社は、創薬事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。